

第3回運営委員会の協議状況

日時 平成16年7月5日(金) 17:00~21:15

場所 ソリオホール(3F会議室)

出席者 (委員) 松本(誠)、川谷、長峯、岡田、佐々木、中川
奥西、伊藤、岡、酒井、土谷

(県) 田中、黒田、西川、松本、前川、前田、西村、竹松、木本

内容(協議結果)

1 第5回流域委員会の議題調整

(1) 武庫川の現状と課題

前回(第4回)の河川管理者説明を踏まえ、各委員が認識している武庫川に対する課題を述べる。現地視察の感想があれば、併せて述べる。

各委員の認識(意見、考え)については、事前に文書で提出してもらい、次回(第5回)流域委員会の協議資料とする。

(主な意見)

- ・ 前回河川管理者が説明した「現状と課題」については、今後、各委員から疑問点や意見を出してもらって、補強していくことが大切。
- ・ 各委員の認識(意見、考え)は、一致しないかもしれないが、今、必ずしも一致させる必要はない。
- ・ 前回は、河川管理者が説明しただけ。前回の流域委員会の積み残しとして、各委員から意見を出してもらおう。流域委員会を円滑に進めるうえで、事前に意見を出してもらった方がよいのでは。

(2) 今後の進め方

「武庫川の現状と課題」の各委員の認識(意見、考え)を踏まえたうえで、今後の進め方について、協議する。

河川管理者案の提示を受けたうえで、前回(第4回)の流域委員会で提案のあった田村委員、中川委員の意見を含め、今後の進め方について協議する。

(主な意見)

- ・ 運営委員会では具体的な議論に入らず、具体的な内容については本委員会でやるべきだ。
- ・ 2年間の枠組みの中で、議論をどのようにしていくのか。全体の枠組みの議論を踏まえ、今後の議題を設定していく必要がある。運営委員会としては議題を提案しなければならない。
- ・ 行政サイドで考えている今後の進め方については河川管理者が説明し、県のたたき台を委員が修正していけばよい。
- ・ ダムがある場合、無い場合に分けて、議論するという進め方もある。
- ・ 今後の進め方について、河川管理者案を出してもらい、本委員会で議論すればよい。
- ・ 治水については、早い時期に数値的なものを押さえておかないといけない。早期に、数値的なものを出してもらいたい。
- ・ 協議の流れは、河川管理者が考えるフローで検討し、その上で、2年間でどのようにはめ込んでいくのかを本委員会で議論してまとめるべき。
- ・ 田村委員、中川委員の提案をどう取り扱うのかの議論も必要である。

2 その他

(1) 広報、住民意見聴取の具体化

第1回武庫川リバーミーティングの開催（9月4日（土） 収容人員100人程度の会場で開催）について、次回の流域委員会に提案し、協議する。

ニュースレター、リーフレットの作成について、編集、チェック等を行う広報担当委員を流域委員の中から選任する。自薦、他薦により、選任する。

リバーミーティングの開催等住民意見聴取の企画、調整等を担当する住民意見聴取担当委員を流域委員の中から選任する。当面は、運営委員会委員が兼ねる。

(主な意見)

- ・ リバーミーティングの企画やニュースレターの編集、チェック等をしてもらうため、委員の中から、広報担当委員、住民意見聴取担当委員を自薦、他薦でなってもらってはどうか。
- ・ リバーミーティングの出席者の募集広報は、どうするのか。
- ・ 情報は、公平に流すことが大切である。委員会の開催案内を含め、全戸配布の市の広報紙に毎月記事を載せてもらえないか。
- ・ 市の担当者が毎回出席しているが、当事者としての意識が欠けているのではないか。
- ・ 広報は最低限、「県民だより」「武庫川流域委員会のHP」とし、所管の異なる市の広報はプラスアルファぐらいに考えておいた方がよい。
- ・ リバーミーティングについては、手作りでもよいから、案内チラシを早急に作るべきである。
- ・ ニュースレターは、委員会のメンバー、活動の概要、これからの日程などを記載し、第1号を早急に作ってもらいたい。
- ・ ニュースレター、リーフレットは、他の流域委員会で作成しているものも参考に、まず、事務局でたたき台を作りたい。
- ・ 住民の意見を聞かせてもらう場合は、必要であるが、流域委員会は、委員が議論するのが本来である。

(2) 意見書の取り扱い

河川管理者への資料請求分については、基本的な回答方向（資料の有無、提出可能の可否等）を入れた項目一覧を作成する。

「傍聴される方へのお願い」（ちらし）の文章は、削除する。

(主な意見)

- ・ 意見書のうち、運営に関しては、運営委員会で回答していかなければならない。
- ・ 「傍聴される方へのお願い」（ちらし）の記載事項（会議中の静粛等議場の秩序維持のお願い）は、当然のことでありわざわざ書く必要はない。
- ・ 意見書が出しっぱなしになることが多い。時間をとってでも、流域委員会のなかで議論が必要。傍聴者の発言も結論が出る前に聞くべき。
- ・ 議論の途中に委員の確認を取りながら進めている。そこに、その都度、傍聴者の意見を挟んでいくのは、現実的には困難である。
- ・ 流域委員会で運営委員会報告をするとき、意見書を整理し、正しく発信することが大切である。

(3) その他

第4回運営委員会は、7月27日（火）17:00（場所未定）から行う。